

万葉集

vol. 14

はじめの
日本に現存する最古の
和歌集『万葉集』を
わかりやすく紹介します。

巻向の穴師

「巻向」は現在の桜井市で三輪の北方にあたります。今も箸墓をはじめとする古墳や、垂仁天皇の纏向珠城宮跡伝承地などが存在し、古代を偲ばせます。

JR万葉まほろば(桜井)線の巻向駅から東へ進むと、景行天皇の纏向日代宮跡伝承地や穴師坐兵主神社があります。このあたりを今「穴師」といいます。ただし右の歌にあるように『万葉集』では「痛足」(写本によっては「病足」とも)と表記されています。「痛足の川」は巻向川が穴師付近を流れる際の呼称であると考えられています。例えば上流を吉野川といい、下流を紀ノ川というように、同じ川の流れてあっても場所によって名称が変わるためです。

巻向の痛足の川ゆ 往く水の

絶ゆること無く またかへり見む

(訳) 巻向の痛足川を流れゆく水のように、絶え間なくくり返しこの川を見よう。
柿本朝臣人麿歌集(巻7 一一〇〇番歌)

この歌は痛足川(穴師川)を流れる水が絶えないように、絶え間なくこの川を見続けよう、と痛足川を褒め称えています。実は『万葉集』にはこれとよく似た歌があります。それは「見れど飽かぬ吉野の河の常滑の絶ゆることなくまた還り見む」(巻二の三七番歌)で、吉野行幸の時に柿本人麻呂が詠んだ歌です。こちらは吉野川を褒め称えた内容となっています。

「柿本朝臣人麿歌集」は『万葉集』より古い歌集で、柿本人麻呂によつて編纂されたと思われていますが、残念ながら現存しません。『万葉集』を見る限り、この歌集には巻向を詠んだ歌が他にもいくつかあります。巻向から北へいった天理市の標本を柿本人麻呂の出身地とする伝承がありますが、それと考えると想像が膨らみますね。

(本文 万葉文化館 小倉久美子)



アクセス

JR万葉まほろば線巻向駅下車 西へ約500m



箸墓古墳

桜井市の北部、JR巻向駅周辺にひろがる纏向遺跡は、初期ヤマト政権発祥の地と考えられています。また、邪馬台国の大和説最有力候補地でもあります。周辺には、纏向石塚古墳をはじめとする史跡纏向古墳群や、卑弥呼の墓説もある箸墓古墳などが点在しています。古代へ誘う風景を訪ねて巡り歩いてみませんか。

纏向遺跡

万葉ちゃんのスポット紹介



万葉ちゃん